



# しりょうかんだより



No.6



きょうどしりょうかん にわ こふん いちく しゅうらく  
郷土資料館の庭には古墳が移築されています。古墳とは、集落のオサが自  
分の力を示すために造った大きなお墓のことです。この古墳は市内野見山町  
にあった榎尾1号古墳です。円形で直径約10m、高さ2m、石でつくられ  
た死者を葬る場所（石室）の全長は6.6mです。石室には普通、オサとい  
っしょに装飾品や鏡などその人の力を示  
す品が納められますが、この古墳にどん  
な品が埋められたかはわかっていません。  
今からおよそ1400年ほど前のお墓です。  
石室の中にも入れますので一度遊びにき  
てください。



## とよたのれきし(中世1)

かまくらじだい  
(鎌倉時代：1192年～1338年)

かまくらばくふ しょうぐん おさ ちいき しょうえん  
鎌倉幕府ができ将軍が国を治めるようになり、この地域にあった荘園にも有力  
な武士が地頭に任命されました。地頭ははじめ荘園を管理し税金を集める仕事  
をしていましたが次第に権力を強めて、実質的な領主となりました。

市内で最も大きい荘園・高橋荘の地頭となった中條氏は、戦いに勝つことや一  
族の繁栄を願って猿投神社に多くの宝物を寄進しました。こうした宝物は現在、  
国や県にとって重要な文化財に指定されています。中條氏は矢作川を船で物資  
を運ぶ交易で財力をたくわえたと考えられています。船着場である川湊は今の

ひらいちょうふきん ひらえみなと ちょうこうじ  
平井町付近（平江湊）や長興寺  
ふきん しろのこうみなと  
付近（下江湊）にあったことが  
わかっています。

この鎧は、国の指定文化財です。  
名前は榎鳥（カケス）という鳥の羽根  
に似た糸でつなげてある（威してある）  
鎧で、大きな袖が付いているという  
意味です。



猿投神社



かしどりいとおどしりいおあそでつき  
榎鳥系威鎧大袖付

きせつのはなし — 拳母祭り —

山車ってなあに？

豊田市の拳母神社では毎年10月第3土・日曜日に「拳母祭り」が行われています。1日目を「試楽」といい、2日目を「本楽」と呼んでいます。本楽での「山車曳き出し」はホイサホイサのかけごえとお囃子の高鳴る中、次々に山車が曳き出されていき、紙ふぶきが舞う様子は大変きれいです。みなさんのなかにも行ったことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

拳母祭りの始まりは江戸時代始め頃のように、今のような山車の様子になったのは江戸時代中頃から終わり頃です。山車はそれぞれの地方によって呼び方が異なり、山車、屋台、山鉾、壇尻、楽車、花車などと呼ばれています。

古代人の神は祭りにあたって、高い木に神がよるという考えから、木を御神木としています。それを標山といい、標山を氏子が町の中で曳き回す行事がいつの頃からか始まり、移動神座となりました。それが山車の始まりと考えられています。



拳母祭りでは8台の山車が出ますが、それぞれに大変立派で、幕に描かれている絵も違います。山車の組み立てはどの町でも、祭りの2～3週間前に行います。図面などはないので、経験と勘で行われ、釘は使わず木製のツメや麻ひもを使って組み立てられています。

民具 M I N G U

まねきねこ

まねきねこは、お店がもうかったり、お客さんがたくさん来るように願ってお正月に商人が店先にかざったものです。また、猫がねずみを追い払う意味から、ねずみよけや蚕がたくさんとれるように蚕を飼う農家が猫の置物をかざったものもあります。郷土資料館の土蔵にもねずみよけの猫がいます。みなさんぜひ見に来てください。



しりょうかんだより No.6

平成14年8月28日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471 0079 豊田市陣中町1 21

でんわ 0565 32 6561

URL <http://www.toyota-rekihaku.com>

E-mail [rekihaku@city.toyota.aichi.jp](mailto:rekihaku@city.toyota.aichi.jp)

郷土資料館では、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。